

『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』に向かうNIEのあり方

指定校2年次 大町市立大町東小学校 大曾 雪絵, 小山 正博

(1) 本年度のNIE活動の概要

NIE 指定校2年目として、昨年度のふり返りをもとに大切にすることは「児童も職員も気軽に新聞に親しみを持てるNIEの実践」である。そこで本校では以下のような実践を進めた。

①NIEコーナーの設置（低・高学年昇降口前2カ所）

NIE 部会職員で選んだ新聞記事を取り上げ、全校児童に問いかける形で新聞スクラップを掲示した。児童は自分の意見に合う項目にシールを貼ったり、付箋に考えを書き込んだりして新聞に親しんだ。また、無料提供の新聞を展示して児童や職員がいつでも閲覧できるようにした。

②職員研修

NIE 推進協議会の畑さん・中山さんを講師として「NIEについて知り体験しましょう」をテーマに職員研修で学び合った。同じ記事を読んでも、多様な考えが生まれることを学ぶことができた。

③各学年におけるNIEの授業実践

「教科学習をより深めるための新聞活用のあり方」を探り、様々な学年で授業実践を行った。

④新聞記事を使った本の紹介（図書館）

図書館では、新聞記事で紹介された本を児童に広げ、記事と並べて図書館に展示した。

以上のように、様々な形で新聞を活用できた半面、教材に合った記事を選ぶまでに時間がかかることや、記事の読み取り（語句の読みや意味の難しさ）の難しさに対する課題が残った。

(2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は全校児童131人、全10学級（全学年単級，特別支援学級4学級）ある。昨年度はNIE指定校1年次の取り組みとして、高学年昇降口前にNIEコーナーを設置したり、1・5・6学年でNIEの授業実践をしたりした。

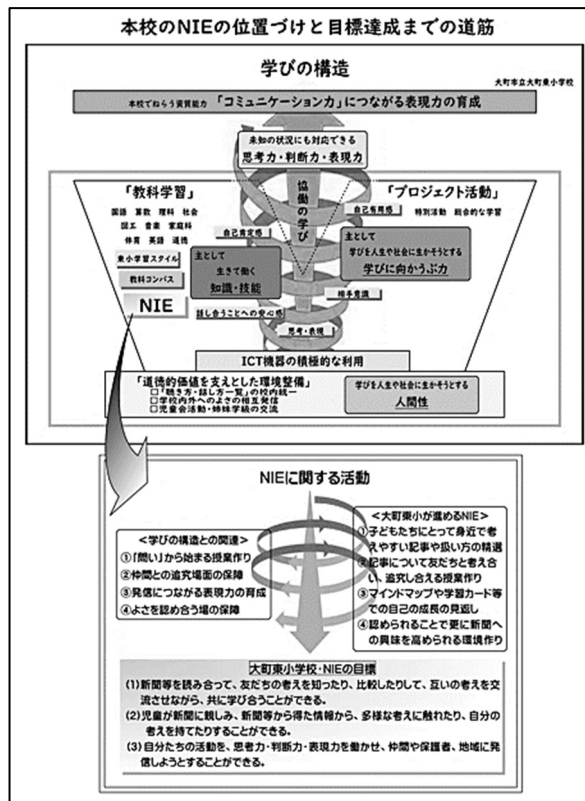
本年度は、さらに全校にNIEを広げるために重点研究部会の一つとして「NIE部会」を設置した。そして、図書館や保健室でのNIEを試みたり、低学年昇降口にもNIE掲示板を設けたりするなど、昨年度以上に全校が新聞に親しめる環境づくりを進めようと考えた。さらに、信濃毎日新聞社に依頼して新聞作りの出前授業やNIEの職員研修も取り入れ、昨年度以上に児童・職員が新聞を活用し、日々の授業に活かせるようにした。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

本校でねらう資質能力は『「コミュニケーション力」につながる表現力の育成』である。

「コミュニケーション力」は児童にとって重要な力だと考える。なぜなら、様々な人とコミュニケーションを取り合い、自己認識を深めたり、他者の考えを知ったりして成長していくことは、今後向き合うこととなる多様性社会を自分らしく生き、自己実現をすることにつながるからである。そして「コミュニケーション力」を伸ばすためには、児童の表現力（自分の感情

や思考を、言葉や文字などで他者に伝える力)を養うことが必要である。そのために本校では、「問いから始まる授業づくり」を進めている。「もっと知りたい。」「友だちと話し合ってみよう」と思うような「問い」を教師が投げかけることで、児童は主体的に考えて表現しようとするからである。さらに、仲間との追究場面では「なぜ?」「どうしてそう考えたの?」「わからないから教えて。」と伝え合える環境や関係づくりを整えることで、友達の考えを認め合う場も保障されていく。「問いから始まる授業づくり」を授業の中心に据えることと、本校の「学びの構造」(右図)を関連付け、本校では令和5年度NIEの目標を以下の通り設定した。



<大町東小学校・NIEの目標>

- 新聞等を読み合って、友達の考えを知ったり、比較したりして、互いの考えを交流させながら、共に学び合うことができる。
- 児童が新聞に親しみ、新聞から得た情報から、多様な考えに触れたり、自分の考えを持てたりすることができる。
- 自分たちの活動を、思考力・判断力・表現力を働かせ、仲間や保護者、地域に発信しようとする事ができる。

(4) 公開授業以外を含めたNIEの取り組みの状況

前述で述べた(1)③の各学年の授業実践の様子は以下の通りである。

【2年生】

生活(国語)科の研究授業「学区たんけん・新聞プロジェクト」では、学区探検をして見つけた「町のすてき」を新聞にまとめ、発表する活動を行った。模造紙に一人ひとりの子どもの記事を貼り付けることで、一枚の新聞を作り上げた。記事や見出しを工夫したり、読み手を意識した記事作りをしたりしたことによって、情報を整理する力やまとめる力、自分の思いを伝えるための表現力を養うことにつながった。



【4年生】

水道関係施設の社会見学新聞を書く活動では、出前授業で新聞の書き方を学び、手書きの新聞を書き上げた。「記事構成シート」を活用することで、記事を書く手順や書き方に見通しを持たせた児童が多かった。完成した新聞は全校に見てもらえるように掲示し、友達と感想を伝え合う活動を行ったことで、相手意識や自己肯定感を高めることにもつながった。さらに、長野見学後にはクロームブックでの新聞作りにも取り組んだ。

【5年生】

国語の「新聞を読もう」の単元で、新聞の構成等について学習した。その後、「関東大震災」の記事を読み比べ、地方紙と全国紙の見出しや記事の書き方の違いを学んだ。さらに、子ども新聞を読んで感想を伝え合う活動も行ったことで、新聞に親しむことができた。

【6年生】

プロジェクト活動の中で、音楽会や運動会で、全校の活動を保護者の方に知ってもらうために、「音楽会新聞」や「運動会新聞」を作成し発信してきた。公開授業については、後で述べる。



(5) 公開授業などの活動内容

授業日：令和5年10月4日（水） 第6校時 授業者：6学年担任 小山正博

学年：6学年 男子16(3)名 女子11名 計27(3)名

1. 単元名 「Come on! 大町プロジェクト ～大町のよさを発信しよう～」【国語科】

2. 単元目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。【知識及び技能】
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしたことに基づいて、自分の考えを持つことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 引用したり、図表や写真などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

3. 単元展開

次	学習活動	指導上の留意点	評価・評価方法・備考
総合①	○大町のよさを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの意見だけでなく、子どもが保護者に聞く。 ・模造紙に付箋で貼り出す。 	

第一時	○個々の願いを出し合い、学習の見通しについて意見を交わして単元のスローガンを作る。	・「だれに」「何のために」作るための活動なのかを皆で確認し合う。	
総合②	○スローガンを達成させるためのグループ（プロジェクト）分けをする。	・まとめ方を意識してグループ分けを行う。	主体的な態度① <u>ねがいの記述</u> □スローガン作成のための願いの記述の様子
総合③	○信濃大町駅の観光案内所に行き、チラシやリーフレット、パンフレットを集める。	・大町市観光協会の方に、集客への工夫や努力についてインタビューをする。	
第二時	○新聞、チラシ、リーフレット、パンフレットの共通点や違いについて知る。	・実際にそれぞれのものを手にして見ながら、共通点や相違点をベン図に書く。	思考・判断・表現① <u>ベン図への記述</u> □学習カードのベン図への記述の様子
第三・四時	○企画書作成。 ①グループで発信する大町のよさについて話し合い、構成を決め、役割分担をする。 ②リーフレット作りの手順についてグループ内で計画を立てる。	・教科書を見て、行うべき作業内容を確認するが、その手順については子どもたちに任せる。 ・記事にする方に、投稿の確認のポイントを必ず取ることを伝える。	思考・判断・表現② <u>構成・手順の記述</u> □学習カードへの記述の様子
総合④	○リーフレット作成用のテンプレートを共有ドライブ内に作成する。	・ICT支援員にサポートしてもらいながら、テンプレート作成を行う。	
朝活動	○著作権について学ぶ。	・インターネットにある写真には著作権があることを確認する。	※文化庁 HP の YouTube から学ぶ
第五・六時	○大町のよさについて詳しく調べる。 ・ Chromebook ・観光チラシ（駅、ホテル） ・投稿確認、インタビュー	・調べたことは、記事に利用するために、学習カードにしっかり記録しておくように伝える。 ・投稿確認をとって記事にするように伝える。その際に写真掲載、インタビューもできるなら行う。	思考・判断・表現① <u>大町のよさの記述</u> □学習カードへの記述の様子
総合⑤	○Uターン、Iターンで大町に住む方に話を聞く。	・大町で生きると決めた方の想いをリーフレット作りに活かそうか問う。	
第七・八時	○担当する記事の割り付けを決め、Chromebook で作成する。 ・（共有ドライブ内で共同作業） ①割り付け ・ ②「見やすさ」「わかりやすさ」	・過去に行ったプロジェクト活動の中で、新聞作りを行った友達から、共有ドキュメント内での共同作業について説明を受ける。 ・新聞と「チラシ」「リーフレッ	知識・技能① <u>Chromebook への打ち込み</u> □記事作りにおける語句の使い方・文章の作り方 思考・判断・表現③

九時	の中身について考えて、記事作りにつなげる。 ③「行ってみたい」について考えて、記事作りにつなげる。 ④各グループの書いたリーフレットを読み、感想を伝え合い、修正箇所があるようなら修正する。	ト」「パンフレット」の共通点や相違点で学んだことを意識するように伝える。 ・スローガンの「見やすさ」「わかりやすさ」「行ってみたい」をどのように具現化させるか問う。 ・記事についてピカイチとイマイチを伝え合い、イマイチについては修正時間を取る。	<u>Chromebook への打ち込み</u> □共有ドライブ内での記事の作成状況 主体的な態度② <u>Chromebook への打ち込み</u> □共有ドライブ内での記事の作成の様子 主体的な態度① <u>推敲作業での発言・修正の作業</u> □推敲作業への参加の様子
総合⑥	○リーフレットの配付（配布）の仕方を考えて準備する。	○「どこで」「どのように」「どのような言葉をかけて」配布（配付）するか、あるいは置いてもらうか、修学旅行の日程を確認しながら決め出す。	
修学旅行	○修学旅行の際にリーフレットを配付する。	○リーフレットを配付する。	

※作成したリーフレットは、大町市観光協会さんに置く。カラー印刷代は、北安曇教育会研究助成金を利用して行う。

4. 本時案

(1) 主眼

リーフレットの原稿を **Chromebook** の共有ドキュメント内で共同作成する場面で、よいと思える友だちの表現を引用したり、図表や写真などを効果的に用いたりして、自分の伝えたいことがリーフレットの読み手に伝わり、大町に「行ってみたい。」と思えるような書き表し方を自分なりに工夫することができる。

(2) 本時の位置

前時：「見やすさ」「わかりやすさ」を考えて、**Chromebook** の共有ドキュメント内でグループでの共同作成を開始した。

次時：原稿の修正を終え、グループ分の原稿を完成させる。

(3) 指導上の留意点

①子どもたちの活動が常にスローガンへ向かっているか意識できるよう言葉がけをする。

②子どもたちから発信された言葉が視覚から確認できるよう、黒板や掲示などに残す。

(4) 展開

	学習活動	予想される児童の反応	支援・評価	時
導入	① 前時までの作業を確認する。	・見やすさ、わかりやすさを考えたな。 ・もう、大体作れているぞ。 ・まずい、全然作れていないな。	・ Chromebook で前時までに作った自分たちの記事を見る。	2
	② 今日の問題を確認する。	T.Q「行ってみたい。」と思える記事ってどんなものだろう？ ・できるだけおいしそうに見える写真を貼るといい。見出しについてはもう少し考え	・前時までに作った記事を模造紙に掲示し友	5

		<p>ないといけないな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所や電話番号をわかりやすく入れたいな。 ・大事なことの色を変えているのはいいな。 	<p>達のよさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考えを持って原稿作りが始められるかグループ内で確認させて活動に入る。 	
展 開	<p>③Chrome book を使って原稿作りを行う。</p> <p>④他のグループのリーフレットを見合っぺピカイチやまいちを伝える。</p> <p>⑤修正作業を開始する。(時間で切る。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さあ、続きを頑張るぞ。 ・写真を選んだけれど、これでいいかな。 ・営業時間や営業期間を入れてみたけれど、これでいいかな。 ・楽しそうな写真じゃなくても景色がきれいだからこれでもいいよね。 ・住所や電話番号がわかりやすく入っているな。 ・大切な所の文字の色を変えてみてもいいかもしれないな。 ・もう少しスペースを作ってみよう。 ・言葉を減らしてスペースを作ってみよう。 ・電話番号があればわからないことは聞いてもらえるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で声を掛け合いながら作業を進めるように促す。 ・他のグループのリーフレット記事を見て気づいた良い点と改善点を付箋で貼って残していくように指示する。 	20 8
			<p>思考・判断・表現③ Chromebook への打ち込み <input type="checkbox"/>共有ドライブ内での記事の作成状況</p>	
ま と め	<p>⑥本時をふり返る。</p> <p>⑦次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすそうな記事になってきたぞ。 ・まだ工夫できることはないかな？ ・次の時間までに、大町に「行ってみたいな。」と思えるような原稿を完成させるぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回が原稿作りの最終であることを伝え、次回につながるコメントを書くように促す。 	

5. 児童の反応

国語科と総合的な学習の時間（本校の核となる『プロジェクト活動』）を組み合わせる授業展開を進めたことで、児童がより主体的に行動する学習や活動を展開することができた。中には、週末お家の方と一緒に掛掛け、お店の方と直接話をして写真を撮り、記事に載せる児童もいた。他地域の方が「大町に行ってみよう。」と思えるようなリーフレット作成を意識して、相手意識を持って取り組んだり、友達と良さや改善点を伝え合い修正を図ったりすることで、本校が目指す「コミュニケーション力」の育成にもつながったと考える。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

指定校2年次ということで、昨年度以上にNIEを全校に広げられた半面、教科単元に合った新聞を探すことは時間がかかることや、新聞記事の読み解くことの難しさが課題だと考えた。Googleドキュメントでの新聞制作は縦書きができないため、新聞制作のアプリはとても良いと感じるが、無償提供してもらえると更にありがたい。

